

令和6年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員 組織マネジメント研究会 参加報告

共通機器部門 情報基盤機器管理班 中川 敦

1. はじめに（目的等）

各大学等が抱える課題の一つに、組織マネジメント力を持つ人材の不足が挙げられる。このたび、業務の効率化や専門技術の計画的継承を担う人材育成と、各大学等における技術支援体制の強化を目的とする、中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会に参加したので報告をする。

2. 期間・場所

期間：令和6年8月29日～8月30日

場所：島根大学 松江キャンパス（台風のためオンライン開催となった）

3. 参加者等

中国・四国地区の国立大学法人及び国立高等専門学校機構の技術職員 27名

4. 研修内容

セミナー：「キャリア自律推進研修」 株式会社インソース 澤田 和美 氏

講義：「大学におけるDX推進の課題と技術職員の役割」 島根大学総務部情報推進課長 宮脇 貴子 氏

事例研究：島根大学 総合科学研究支援センター 技術専門職員 山根 冬彦 氏

事例研究：松江工業高等専門学校 実践教育支援センター 技術長 川見 昌春 氏

5. まとめと感想

初日のセミナーでは、キャリアについての考え方を学んだ。自分のキャリアをどう作っていくか考える際には、「自分がしたいこと」に主眼を置き、その実現のために「自分ができること」を増やしていくようにする、つまり自分を知ることが大事だと理解した。また、組織としては各個人のキャリア志向を把握し、学会や研究会等への参加旅費支援や組織内研修により、各個人のできることを増やしていくようにすることが望まれる。

二日目は主催校である島根大学と松江工業高等専門学校での実際の業務例が発表され、それらに対する活発な質疑応答や意見交換が行われた。その中で出てきた「私は花咲か爺さんになればいい」という言葉が印象に残った。学内のDXを推進するにあたり、最初の取っ掛かりを手助けする（＝種を蒔く）ことで、ゆくゆくは構成員が自ずからシステムを作り学ぶようになり（＝花が咲く）、たくさん花が咲けば学内にコミュニティが立ち上がり、自然とDXが進んでいくことを期待するという意味であった。これはDXに限った話ではなく、人材育成全般に適用できる考え方だと感じた。

これまで私はキャリアというものがよくわかっておらず、職場での地位を高めていくのがキャリアなのかと思っていたが、それはキャリアのうちの一つの選択肢に過ぎず、要はなりたい自分になる、というのがキャリアなのだ分かった。今回得た知見を自分なりに今後の班活動に反映させていきたい。